2015年12月18日

メキシコの政策金利引き上げについて

ポイント① 政策金利を3.25%に引き上げ

12月17日、メキシコ中央銀行は金融政策決定会合において、政策金利であるオフィシャル・オーバーナイト・レートを0.25%引き上げ、年率3.25%とすることを決定しました。市場の大半は今回の利上げを予想していました。利上げは2008年8月以来となります。

ポイント② 米国の利上げに伴なうペソ安を警戒

今回の決定の背景には、同中銀が米国の利上げによるペソの下落やこれに伴なうインフレ率の急上昇を警戒していることがあります。

同中銀は今年7月に、年内の金融政策決定会合の日程をすべてFOMC（米連邦公開市場委員会）後に変更したり、これまでの金融政策決定会合後の声明で米国の利上げに追随する意向を示唆するなど、FOMCの動向を注視してきました。16日にFRB（米連邦準備制度理事会）がFOMCで0.25%の利上げを決定し、メキシコ中央銀行もこれに追随しました。

同中銀は声明において、同国と米国の金融政策のスタンスの差や、為替レートがインフレ率に与える影響、経済のスラック（余剰設備や余剰人員など）の変化などを注視するとしています。また、今後の金融政策については、必要に応じて柔軟に追加の政策をとることが可能と説明しており、市場では追加利上げを予想する声もあります。

ポイント③ メキシコペソは小動き

12月17日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、対米ドルで前日比0.4%程度、対円で同0.1%程度のメキシコペソ安となりました。

メキシコ経済は、内需の回復が顕著であり、インフレ率が相対的に健全な水準にあります。さらに、米国の利上げが米経済の回復を伴なうものであれば、米国向け輸出が総輸出の約8割を占めるメキシコ経済にも追い風となります。このような状況のもと、ペソは中長期的に他の新興国・資源国通貨に比べて堅調に推移することが期待されます。

重要イベント		
	2016年1月6-11日	消費者物価指数(12月)
	1月11-16日	鉱工業生産指数(11月)
	2月4日	金融政策発表

図1：政策金利の推移

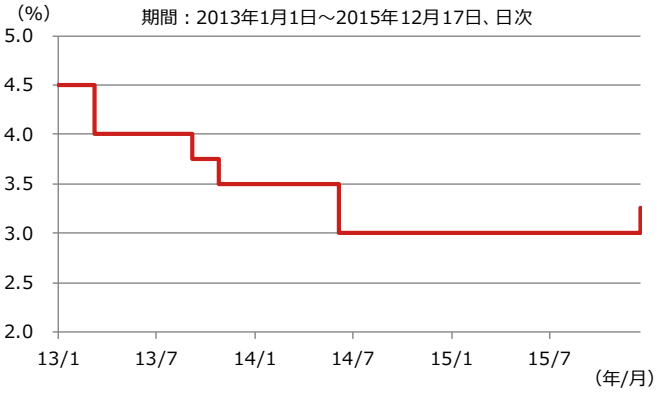

図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移

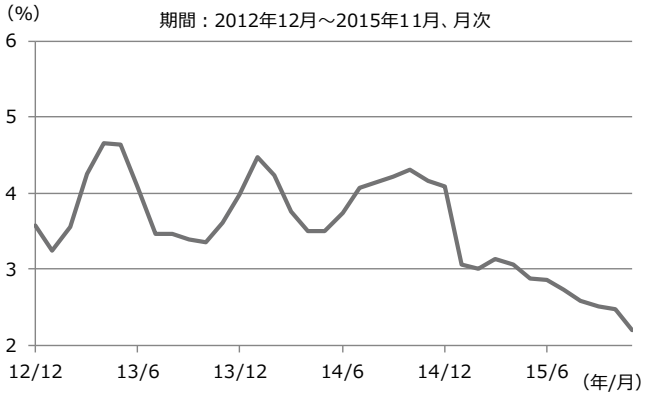

図3：為替レートの推移

（出所）Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

NOMURA 野村アセットマネジメント

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。